

ワーキンググループ(WG)の 設置について

ワーキンググループ(WG)の設置について

◎浸水により様々な機関が影響を受けることが想定され、多様な観点からの事前防災行動の検討が必要

⇒次回、第2回検討会では、円滑な検討のため、以下の2つのテーマ別のワーキンググループ(WG)を設置(参加対象は防災業務の計画策定に携わる方)

ワーキンググループ	討議項目(例)
避難WG	<p>○<u>住民避難</u>、<u>要配慮者避難</u>に関する地域の水害リスクは？</p> <p>○以下の課題を解決するための事前防災行動は？</p> <p>【検討課題例】</p> <p>内水氾濫や道路冠水の発生を見越した早期避難情報伝達／浸水避難所の開設中止や二次避難対策／福祉施設や病院等の要配慮者の避難支援(バス移送等)／学校・防災拠点施設の避難対策／水防団等の安全退避 等</p>
水防・交通WG	<p>○<u>水防活動</u>、<u>交通ネットワーク</u>に関する地域の水害リスクは？</p> <p>○以下の課題を解決するための事前防災行動は？</p> <p>【検討課題例】</p> <p>内水氾濫や道路冠水を想定した水防活動／水防団等の安全退避／道路交通規制／鉄道運転中止判断／施設設備保全／利用者の避難誘導・安全確保周知／避難活動の協力</p>

ワーキンググループ(WG)の設置について

◆避難WGの検討メンバー案

ワーキンググループ	検討メンバー(協議項目)の案
避難WG	<ul style="list-style-type: none">◎四万十市(地震防災課、市民課、教育委員会)◎幡多中央消防組合◎高知県(幡多土木事務所)◎四万十市消防団、福祉施設、医療施設(市立病院等)◎四国電力(株)<ul style="list-style-type: none">※氾濫時の停電等の避難所への影響◎西日本電信電話(株)<ul style="list-style-type: none">※広域避難時のエリアメールの活用や避難者の安否確認等に影響◎中村河川国道事務所◎高知地方気象台※高知大学(オブザーバー)

ワーキンググループ(WG)の設置について

◆水防・交通WGの検討メンバー案

ワーキンググループ	区分	検討メンバー案
水防・交通WG	交通・道路関係	◎四万十市(地震防災課、まちづくり課、企画広報課、上下水道課) ◎幡多中央消防組合、四万十市消防団 ◎中村河川国道事務所 ◎高知県(幡多土木事務所) ◎中村警察署 ◎土佐くろしお鉄道(株) ◎高知西南交通(株)
	河川・気象情報関係	◎中村河川国道事務所 ◎高知地方気象台

ワーキンググループ(WG)の設置について

- ◆ワーキンググループ会議(2回開催予定)
⇒ワークショップ形式によるグループ討議を行う

区分	主な内容
第1回 WG 会議	<p><避難WGと水防・交通WGを同日に開催></p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none">1. タイムライン検討の条件の説明<ul style="list-style-type: none">①開催趣旨、ハザード設定、水害リスクの説明②現行計画の整理結果及び課題の説明2. タイムライン検討ワークショップ(グループ討議)<ul style="list-style-type: none">①過去の災害対応のふり返りと必要な事前防災行動の抽出②新規の事前防災行動の追加、現行防災行動の前倒し実施等の検討
第2回 WG 会議	<p><避難WGと水防・交通WGを同日に開催></p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none">1. タイムライン検討の条件の説明<ul style="list-style-type: none">①前回ワークショップ意見に基づきとりまとめた「タイムライン素案」説明2. タイムライン検討ワークショップ(グループ討議)<ul style="list-style-type: none">①新たに抽出された事前防災行動について関係機関の連携の再確認②関係機関の意見調整とタイムライン素案の追加・修正

ワーキンググループ(WG)の設置について

■ワーキンググループとは

ワーキンググループはある議題について参加者同士が協議しながら進行



荒川下流河川事務所におけるタイム
ライン検討の様子

ワーキンググループ(WG)の設置について

■第1回WG会議におけるグループ討議の詳細

【検討の目的】 洪水氾濫に備えた事前防災行動の抽出

【検討の実施方法】:

- ①参加者は台風接近～氾濫発生までの必要な防災行動を意見交換
- ②「タイムライン様式」に、各機関の意見を書き込み
 - 必要な事前防災行動は何か？
 - いつ、だれがやるか？(リードタイムと実施主体を明確化)

■タイムライン様式への記入イメージ

タイムライン様式(A1判)

いつ		何を・誰が
-24H	氾濫注意水位	
-12H	避難判断水位	
-6H	氾濫危険水位	
-0H	破堤・越水	

参加者は、各々①誰が、②何を(事前防災行動)、③いつ、④誰と(連携する機関)を記入し、リードタイムを考慮し、適切な「いつ」の欄を選んで貼り付け。

(記入例)

- ①誰が
四万十市地震防災課
- ②何を(事前防災行動)
避難勧告の発令・伝達
- ③いつ
-6H(氾濫危険水位到達時)
- ④誰と(連携先の関係機関)
中村河川国道事務所
(氾濫時の被害想定等の助言)

ワーキンググループ(WG)の設置について

■第1回WG会議におけるグループ討議の流れ

項目	内容	時間配分
1. はじめに (記録進行係より)	①グループ討議の流れ説明 ②参加者自己紹介	約15分
2. グループ討議 ＜避難と水防・交通の テーマ別に検討＞ (コンサル:進行) (参加者:フセン作業)	③想定ハザードや災害リスク等の説明 ④現行計画の整理結果及び課題の説明 ⑤過去の災害対応のふり返りと事前防災行動 の抽出(グループ討議とフセン貼り付け) ア.過去の災害で実際に対応した防災行動 イ.新規の事前防災行動の追加 ウ.事前に実施すべき防災行動(実施時期) エ.連携すべき関係機関の検討	約180分 (概ね、避難 90分+水 防・交通90 分)
3. とりまとめ発表 (四万十市担当者)	⑥グループ討議意見の概要を発表	約15分

■第1回WG会議におけるグループ討議の成果について

◎意見結果は事務局でタイムライン素案として取りまとめ、第2回WG会議で再度、事前防災行動の過不足やリードタイムの確認・見直しを行い、必要な追加・修正を行う。

◎第2回WG会議では、上記の各機関の意見調整と、すぐに実施可能な事前防災行動と、すぐには実施できないものの今後、検討を継続すべき事前防災行動を整理する。